

明治拾貳年拾月ヨリ

客一廳指令
及由青綴

梅藻不端
平井卯兵衛

氏不美子

子 13
1.650

(40)

(5)

書面之趣無營業者ヲ顯シ候モ見羽白

ト明記スルニ於テハハ差支無之候事

明治十二年十一月廿七日

知事 渡邊昇代理

大阪府大書記官 宗戸 昌

大阪府大書記官 宗戸 昌

仲間 兄ノ如クモ若者様ニ

我々同業并未營業開業者見知シモ

着板友書面附申他書託書等名目

る振込書等今下段用口書附名目等

壹

大阪府大書記官 宗戸 昌

大阪府大書記官 宗戸 昌

大阪府大書記官 宗戸 昌

宗戸 昌

大阪府大書記官 宗戸 昌

見留之志五別名書附書記布右左
我之仲名田業見留之志五別名書附
着板之志方書記及方沖洋可及方及
子教之也

力及十二
中十門。十

洋留理之業

博名町三月廿九日
長田

全

平井行信

全

北條忠尚三月廿九日
谷傳信

全

玉江町三月廿九日
澤田

大平小五郎

田中三郎

藤原

因

南正久

井



大阪府知事 渡辺 巖

明治三十四年 三月十日 別冊 一
大阪府知事 渡辺 巖
三月十日 別冊 一
大阪府知事 渡辺 巖

明治三十四年 三月十日
大阪府知事 渡辺 巖



大阪府 橋本署

1/21

参

和... 降... 人... 御... 札... 付... 具... 行... 且... 取...

四

大坂府

書面同之致仰正沙波札の政持る者
以心定措與行願虫ルモ子之佃廿三我ト
心得何

明治二十三年七月

大坂府 警察署 稿

差人 櫻井 卯月

請願書 櫻井 卯月

平井 卯月

私に書付西島之業之爲人 且其供具行且致
之除能人 櫻井 卯月 全之信 櫻井 卯月

清江府府事仲問

由國石律人少居

清江府府事仲問

王平升印

由國石律人少居

口軍律府府事仲問
清江府府事仲問
由國石律人少居

王平升印

清江府府事仲問

通江府

南園長之南傳





伺通

明治十六年三月廿三日

南區長高田傳藏



高田傳藏の御返

仰復業の事
在座の御返
仰復業の事
在座の御返
仰復業の事
在座の御返
仰復業の事
在座の御返
仰復業の事
在座の御返



平井市
平井市
平井市

南區長之自傳

書面何之趣
号布達第
八条抵觸
之儀ト心得可
大阪府
建野郷二

延元禄八

延元禄八

從前被教
稱之有
等之

各道風土業物

南道新田吉原島田四丁目

山形中津川

平井 卯辰

南道新田新太吉原

石川 一口

西道新田町西町吉原

阪東辰造

北道吉原町吉原吉原

山聖久吉

東道内平聖町吉原

和文口徳島

南道吉原町吉原吉原

右町吉原

井上吉原

大沼吉原

吉原町

主個機傳し、後、歴れ、在、歴、存、人、の、事、也、
唯、此、二、人、之、大、雨、し、う、身、振、業、も、も、之、に、
入、り、同、じ、し、初、仲、阿、者、也、も、其、の、目、下、市、内、
列、布、の、経、済、の、為、に、振、上、初、自、身、の、
歴、人、右、の、事、業、も、也、之、に、
依、依、歴、れ、り、振、上、
し、歴、古、の、歴、れ、り、
之、に、同、じ、し、
初、人、の、事、業、も、
也、之、に、
依、依、歴、れ、り、
也、之、に、

大正十一年

右
平井 邦彦



大正十一年

大正十一年

之從後格書多士個張得し信の應れ無
 移人兼業の元化アニモ久雨して分張業と
 多ニ此處移入の因に於て仲間者
 多ク其目下市町刻希移る法匠居る後
 此移し具所ニ多ク其元人上在業業と也
 此後復然と移居る信古極知の法多
 有し其移居るに因りて因りて法多
 此後復然と移居る信古極知の法多
 有し其移居るに因りて因りて法多
 此後復然と移居る信古極知の法多
 有し其移居るに因りて因りて法多

此の
 九
 一
 一
 一

右

平井



大
 西

純

洋海陽業

一洋海陽業之類二名義三其辨諸種

一洋人禮儀之類一其辨諸種

一洋人禮儀之類一其辨諸種

一洋人禮儀之類一其辨諸種

一洋人禮儀之類一其辨諸種

一洋人禮儀之類一其辨諸種

一洋人禮儀之類一其辨諸種

一洋人禮儀之類一其辨諸種

演スルモノニ合シ演技スルモノヲ名支ナキモノトス

十右ノ通ヲ偶遺ナク遺ニ言ハル也

川原ノ下

十右ノ通

昔ノ子ノ音ノ極口音ノ平井早音

大海府知事 建重郷之殿

記

人形牙振業

一牙振業ノ夜ニ右首振ヲ稱シ演習信

演習信スルニ合シ演技スルモノトス未偶ノ通

肩毛ノ初キ女子ノ身振裾捌キ女是ノ方

方ニウシ業未偶林偶遺ノヲ撰字セシモノニシテ

習慣未偶遺ノ業口ルモノ音ノモノトス

十右ノ通ヲ偶遺ナク遺ニ言ハル也

川原 五年
壬午 十一月

河内守 兼
南河内守 兼
壬午 十一月

大河内府知事 建重 卿之殿

化

俄 業
徑口 業

一 俄 ね ま ー 一 疾 去 古 今 雜 語 著 作 せ し 王
ノ ニ シ テ 移 書 有 下 書 任 仕 組 凡 異 十 九 丁 ナ シ
或 公 家 之 官 位 有 せ り 一 一 書 卷 細 云 一
云 思 之 古 活 せ り 一 一 平 氏 或 一 二 異 一 種 之 書 外
着 客 之 服 抱 せ り 一 一 任 仕 組 之 著 者 附 了
一 一 他 人 素 服 之 一 一 任 仕 組 持 役 之 書 之 一 一 カ ツ 一
頭 之 冠 一 一 身 之 衣 之 書 之 一 一 活 活 之 一 一 一 一 一 一 一

貳拾

一淨信信モノ淨信信ノモノハ自今之ヲ入

白ヲ禱リ淨信スルモノトス

一唯子ハ用ニサ淨信信ノモノ信信ノモノトス

淨信信ノモノ用ス

一過リ淨信信ノモノ作リ道具是建異ナリ用ト過リ

仕舞淨信信ノモノニ於テ引道具ト稱シ

ニ重ニ至因信淨信信ノモノ引道具又ハ淨信信ノモノ

ヲ引道具ト稱シ是異ナリ得

一カツラ去ホラカツラト稱シ淨信信ノモノ亦ハ麻草

ヲ以テ割長セシモノナリ

一假口業淨信信ノモノハ人若神ノ信ノ業也

信ノ名應淨信信ノモノ及他信ノ名也

元淨信信ノモノカガシ良時之ヲ信スルモノトス

十右ノ道也淨信信ノモノ

淨信信ノモノ

正信改吉



淨信信ノモノ

丁巳年
壬午年
壬午年
壬午年

大阪府知事 遠里郷之殿

右傳人

曲馬 天示波 雜卷 多品
新内 在久久 獨樂 曲業
法元 舟張 多編 福行
右書 向之 通延 觀十 或業 示返 回
依形 由成 少因 多心 物仲 問之 於
在請 示成 少因 多心 物仲 問之 於

請
壬午年
壬午年
壬午年
壬午年

市書之小者其年一國運其後也

清夜此月之所

君本 其極呈兩部

後 乙

市書之小者其年一國運其後也

中長

平 上平 乙

大板府知事 速聖師之役

此處其術頭之流其技之成
其口如月之入其要其心之成其口

市書之小者其年一國運其後也
清夜此月之所
君本 其極呈兩部
後 乙

大正四年御筆 建中御筆

敬書之云々 祇以在案具在御筆也

井上幸四郎



天竺真神源福美之冠身如素衣之銀
必多之人可常物入名多首之銀人其別
至有之少稱之西門所多改之別居之
亦高之料也之得之如信之之昔事之
王有之十右内侍之成之方之之之之
乃有之之之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之之之之之

敬書之云々 五

補遺書之云々 五





書面、趣不相成、義ト心得可シ

但、通常ノ體裁ヲ以テ官業トナスモノ

ニ、各身甲子九拾四條、布達、觀物

典行、並、遊覽、所、取、締、規則、第

七條、依ルモノトス

明治十六年十一月廿九日

大政府知事、建野、郷之代理

大政府大書記官、遠藤、達



並、應、業、テ、シ、メ、シ、ク、各、身、甲、子

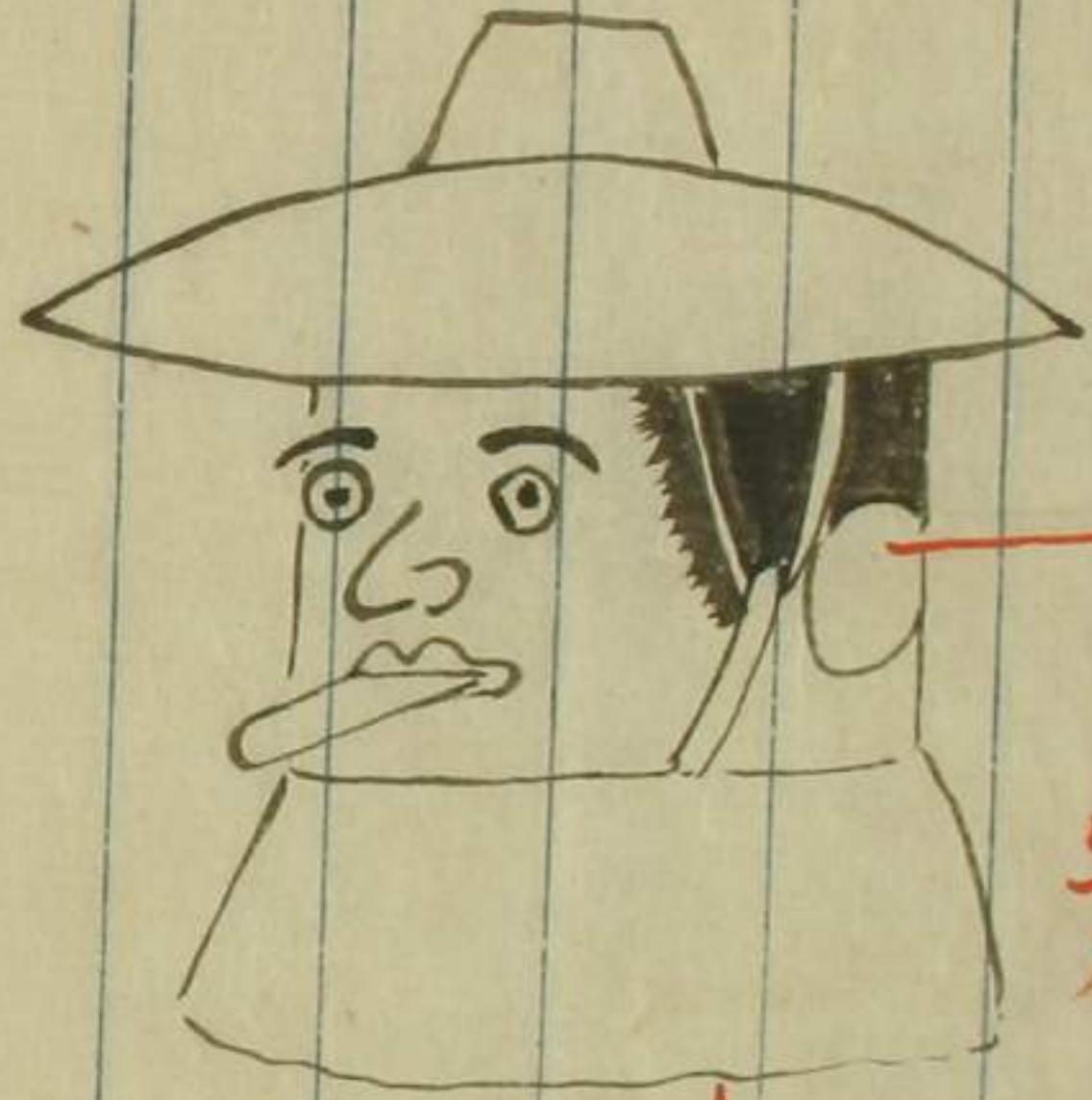
並、應、者、中、テ、シ、メ、シ、ク、稱、在、各、身、記、在

周、面、之、モ、夕、頭、合、體、之、冠、リ、術、頭、之、於、

演、技、し、官、業、之、後、モ、右、體、裁、之、以、及

如、多、面、事、之、異、ク、體、裁、之、以、術、頭、之、演

技スルモノノ差及之等々モ式目下ノ得共ノ
有之無得等何ハ行カニシテ今成



出ス
此ハ右方ノ有ク左右ニ村

一トモ頭下ニ

依別
初ノ種ニ異ナルモノ多ク



南
平牛



大政府知事建中卿之殿

南



書面伺、趣其演技、都度着冠ス
ル、若カラス

但明治十五年九月甲第九十四號布
達、觀物興行場、并遊覽所、取締
規則第七條、遵守儀、心得可シ
明治十六年十二月廿五日

大坂府知事 建野 郷



書面伺、趣其演技、都度着冠ス
ル、若カラス

明治十七年一月十日

南區長 高田 傳藏

南區長 高田 傳藏

明治十七年一月十日

書面伺、趣其演技、都度着冠ス
ル、若カラス

東

勸業

丙 明治十七年一月八日
第二二二八号

南區役所

最長の... 出... 音... 女...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

予下りて
府屬
高き年
字は四
此は
文意
未
多
あり

大坂府知事 森田郷之殿

前書之通 敬

戸云

开上平少之殿



大坂府知事 森田郷之殿

森田郷之殿

中野田行房



清 屋

一 尺八寸 業

十 尺八寸 業 付間之通入

十 尺八寸 業 付間之通入

修

延慶寺

十 尺八寸 業 付間之通入

十 尺八寸 業 付間之通入

平 井 宗 之 衛

十 尺八寸 業 付間之通入

東 野 村

百 十 五

中活田所 傳



大阪府知事 建野郷之殿

書面伺一通

明治十七年一月廿三日

南區長高田傳次



圖書印

御信書中書信割名符之印同
由長尾子自女列名婦之印傳者之印
換紙靴中九節之古袋而中其之印信後
其トテ大モノ以テ御信書及之信符
信割下稱し其式而信書中其之印知任

如行... 及... 所...
口... 也

可... 也

... 年... 月... 日...


南... 長... 向... 傳... 系... 殿

印... 察... 里... 春...

書面伺之通

明治十七年二月十六日

大坂府知事 建野 郷



神... 殿... 御... 儀... 同

社... 人... 神... 殿... 御... 儀... 同

身... 白... 手... 儀... 御... 儀... 同

左... 結... 首... 儀... 御... 儀... 同

神... 殿... 御... 儀... 同

大阪府知事 建重郷之殿

平 信

井上平四郎



寛政十三年六月廿七日
御書之通申出に奉真可成也

御書之通申出に奉真可成也

建重郷之殿
井上平四郎



津門

二聖

此處身振手踊り、并曲應之友、
技原習懐く、或も別儀言向く、
お道、言在り、竹段、呈如、
也

此處、業、
人

清、
古、
日

以、
年、
一、
九、
日

平、
井、
子、
吾、
所



此乃号上段於之上宗之應入由之鞠
化以物之号之海技之又且之應之且之凡光
之及種之枝應之

白品

子品之及之種類之種之可之入あ之持
候之知之中之品之入之種之異之品之取
出之或之者之品之異之海之出之觀之之着之者
之眼之種之之号之異之之書之之海之都之及
候之海之之及之品之種之

十名一海之書之

小段之書之

御書

一 張遺不業

古唐之遺用益唐業仲問三如入
後連家名以呈中上名

此唐業名

古唐業名

古唐業名

古唐業名



古唐業名

古唐業名

水谷寺松

大沼海和事 建聖郷三級

打

和

平井寺無門

石川一口

阪東辰造

山聖久吉

初天の蔵書

中月寺。初上。海山。及。若。年。有。中。寺。
明。公。言。向。中。人。之。之。者。能。應。事。物。不。成。
之。之。之。之。由。之。之。後。所。帳。簿。之。社。寺。概。
管。任。者。在。之。別。後。者。能。應。事。物。不。成。所。

設之官守如客車其有月十步之南區
設初之任守里如中其亦多之全之而序
上之國原之部價也其方也張得此其
之其之之其也 之其方也其也其也
但之別成而身其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也

以爲其也其也其也其也其也其也其也其也

海海海海海海海海海海海海海海海海海海



北區長康馬師之馬師

音也原其也其也其也其也其也其也其也其也
一也而十也其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也

其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也

其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也

其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也

後三... 家... 甲... 年... 月... 十... 日... 南... 區

石... 一... 口

西... 區... 所... 以... 之... 事... 人

北... 區... 志... 局... 上... 之... 事... 人

上... 聖... 人... 古... 事... 人... 之... 事... 人

北... 區... 長... 年... 所... 事... 人

門... 局

客... 年... 月... 十... 日... 呈... 報... 北... 區... 局
案... 之... 由... 事... 務... 之... 任... 業... 且... 應... 力... 持
初... 步... 之... 形... 勢... 極... 其... 艱... 難... 且... 無... 補... 救... 之... 策
之... 及... 華... 之... 事... 務... 則... 宜... 予... 以... 新... 之... 報... 告
本... 局... 在... 方... 會... 務... 處... 再... 呈... 報... 之... 事

北... 區... 局... 呈... 報... 之... 事... 人
本... 年... 井... 呈... 報... 之... 事... 人



北區長席應請之書

書面曰之趣遊執藝稼之日

業之即ニアサス
明治七年二月二十日

南區長高田傳藏

南區長
高田傳藏

漢劇身行降紙鹿之書也或皇局

漢劇身行後復也之句句之復復也

於四景事亦亦事一福之陽後又之

脚之年延鹿之部各之口口事事之

之身之復復也之身之復復也之

長方名也

神宗七年

社屋西序人

壬午年



南園長之自傳

南園何之通

明正十七年二月二十日

南園長之自傳



其公將茶錄卷之三

其公將茶錄卷之三

其公將茶錄卷之三

其公將茶錄卷之三

其公將茶錄卷之三

以爲七年

延慶業

平井子



南園長之自傳

隱劇自與行... 南園長之自傳

言而... 南園長之自傳

目下... 南園長之自傳

却下...

...

明治十七年二月廿三日
藤田

漢制具行...

漢制之... 二十五年... 創傷... 禮制... 希... 漢制具行... 具行...

物之如何古之得之或其所授之何如
之於今之成之也

此處系在府人
請進書者高第也
平井字平

平井字平
平井字平

大阪府知事 建禮郷之殿

此處係在府人
請進書者高第也

大凡吹葉之冠
此處係在府人
請進書者高第也

古之如何古之得之
或其所授之何如
之於今之成之也

目下概如并
政兵一
布也

此處係在府人
請進書者高第也

物之如何古之得之或其所及之何如

以好之

可以好之

可以好之

右何如也 曰年 十月 廿九日 廿九日 廿九日

物之如何古之得之或其所及之何如
物之如何古之得之或其所及之何如
物之如何古之得之或其所及之何如
物之如何古之得之或其所及之何如
物之如何古之得之或其所及之何如

可以好之

物之如何古之得之或其所及之何如

中書省為海地方稅以假札並應移入上邑
 千之應之此或之他府縣之於之在應之
 此或之之府縣之其或之地方之出應之
 之假札假札之府縣之其或之地方之出應之
 兩用即仕客年 丙寅年百五十五
 安年 假札假札之區所其或之地方之出應之
 應人業或之其或之區所其或之地方之出應之
 業或之此入有之之其或之地方之出應之
 或之或或之其或之地方之出應之
 之或之或或之其或之地方之出應之

之此入之其或之其或之其或之其或之
 何之之其或之其或之其或之其或之

丙寅年

延慶寺
 南區寺
 平井 寺
 寺



丙寅年

平井

井上平四郎



東條信被定役者... 某年... 右... 天下... 信... 今...

以... 日... 正... 年... 升... 字... 衛... 印...

大政府知事... 建... 郷... 役... 正... 年... 升... 字... 衛... 印...

書... 用... 出... 役... 例... 正... 年... 升... 字... 衛... 印...

海... 信... 被... 定... 役... 者... 某... 年... 右...

信... 被... 定... 役... 者... 某... 年... 右... 天下... 信... 今...

得吾方念每思日同也

丁巳年

五原

王平



南區長之自傳

陰刻之初作

雨之紅粉

之清刻

初之

又南之紅粉之... 新作之... 思之... 漢技... 何之... 恩... 中... 下又... 漢制

ト云々... 漢制... 何之... 恩... 中... 下又... 漢制

此... 精... 平... 井上平四郎

此... 井上平四郎

井上平四郎



大阪府知事

大阪府知事

建野郷三

書面伺趣人情風俗若クハ事跡ヲ脚色
ニ姿容言語動作等總テ所作ヲ情體ニ
摸擬スルモノヲ演劇ト稱シ其等シク脚色ヲ為
スモハ藝人自ラ言語ヲ發セサルモノヲ身振ト稱
ス其他手踊等ノ如キハ遊藝ノ部分ニ屬ス
ル儀ト可心得事

大阪府知事

明治十七年五月十五日

大阪府知事 建野郷三

大阪府知事 建野郷三

六十

此等音好也

是處較是音若其技應練習之者法祿
 揚（後今之通稱也）於日早若及午時
 中若有之家應得習之設置之以
 一五年一或度之傳習令其如信之候候
 例者之則修傷之其席之應效之如
 八市業之應年音由是等之若則候
 究不之也止之其是等之若則候
 此應初八付間加入也其若下也其候
 候其舍之若之應其候其何分

少持澤古御書

丁酉年七月

北區長 廣島府

大坂府知事 津市御之殿

書面伺之道

大坂府知事 津市御之殿
大坂府知事 津市御之殿

廣政三十三 割傷之走居

古御書

廣政三十三 割傷之走居
古御書 津市御之殿
古御書 津市御之殿
古御書 津市御之殿

勸業

丙
十六
日

○

赤川

南區役所

一 馬鞍遺業

古名は南區馬鞍遺業仲國之偏入等
其遺業は馬鞍遺業に由る也

此遺業は馬鞍遺業に由る也

南區役所
吉原町
二十一年

馬鞍遺業

古名は南區馬鞍遺業に由る也

南區役所
吉原町
二十一年

勸業

別段
馬鞍遺業
南區役所
吉原町
二十一年

馬鞍遺業

考

任日書部



南區之序

谷口正



前書... 戶長

井上平四郎



大坂府知事

津久野郷之殿

甲 明 卷 二 回 乙



馬鞍遺業

馬鞍遺業

客同抄

考成之

少信

書函伺通

明治十七年五月廿一日
南區長高田傳藏

幸一多入呈書一〇月

他府縣之属人修治之禮札物作
之う而府之幸一多入呈書一〇月
之う言書一〇月之幸一多入呈書一〇月

佐田吉部

坊主

谷正市

若草

井上平白

大石存如

走里郷

具行」上區別有らまの國之國人自教
若果協夫了うう高之入更之くく具
行 難哉

一 體れ在思爲人言は應變の文を
何れは應之まふふ是國之或の所
自具行の二第の指し依事の體れ
一 自具行の下の體れ是業中程の
人情或の應人への能なる助ナ
之のの體れ成程のり成月何の

此の九正體之卷の首の之の明泰難體

古書向くは、之の古書ありて、
ラ形古連署しう、此の作爲の體れ、
其の體れ及、應人への第の指し、
其の向く、其の向く、其の向く、
人連署の、其の向く、其の向く、
其の向く、其の向く、其の向く、

印
察
府
署

七十三

七

七十三



印
野
和

弘法大師法地
 いはは
 日十八茶
 教訓
 上巻

弘法大師法地
 いはは
 日十八茶
 教訓
 上巻

大正府和事
 建聖郷之殿

弘法大師法地
 いはは
 日十八茶
 教訓
 上巻

弘法大師法地
 いはは
 日十八茶
 教訓
 上巻

印

阪府
察
署

中

七十三

此處部合いろは教訓歌ナラ擲業ナラ
信無多親不若者者々々雷之怒レテ別冊
勢中暇責彼方此處者々々ナラ暇責レ成
あやめ下なる信者多病レシ化持應々々

<p>こ こをこころとて あきあきとて こころをこころとて あきあきとて</p>	<p>さ さけんでさけんで さけんでさけんで さけんでさけんで さけんでさけんで</p>	<p>て てをてとて あきあきとて てをてとて あきあきとて</p>	<p>こ こをこころとて あきあきとて こころをこころとて あきあきとて</p>
<p>あ あをあかとて あきあきとて あをあかとて あきあきとて</p>	<p>さ さをさかとて あきあきとて さをさかとて あきあきとて</p>	<p>あ あをあかとて あきあきとて あをあかとて あきあきとて</p>	<p>の のをのりとて あきあきとて のをのりとて あきあきとて</p>

府和
野

<p>お おをおとて あきあきとて おをおとて あきあきとて</p>	<p>お おをおとて あきあきとて おをおとて あきあきとて</p>	<p>お おをおとて あきあきとて おをおとて あきあきとて</p>	<p>お おをおとて あきあきとて おをおとて あきあきとて</p>
<p>お おをおとて あきあきとて おをおとて あきあきとて</p>	<p>お おをおとて あきあきとて おをおとて あきあきとて</p>	<p>お おをおとて あきあきとて おをおとて あきあきとて</p>	<p>お おをおとて あきあきとて おをおとて あきあきとて</p>

此處部合いろは教訓歌ナラ擲業ナラ
信無多親不若者者々々雷之怒レテ別冊
勢中暇責彼方此處者々々ナラ暇責レ成
あやめ下なる信者多病レシ化持應々々

府和
野

川崎 幸三

江戶 幸三
新橋 幸三
平井 幸三

十	すけこののちまね たけのめをけよ しんねのめを	九	ものいふや しんねのめを あまのめを	八	今をばきり まきりのめを いふんぬを	七	みちよふを そのめを あまのめを あまのめを
京	まかりのめを いふのめを あまのめを	世	まかりのめを いふのめを あまのめを	六	いふのめを あまのめを あまのめを	五	いふのめを あまのめを あまのめを



書面伺之通

明治十七年五月廿七日

大阪府知事 建野郷



江戶 幸三

江戶 幸三

江戶 幸三

江戶 幸三

江戶 幸三

シテ菓子ヲテ西堂ニ南堂ニ昔ノ所
於テ之痛少苦ク目下ニ存スルモノ
以テ世世ニ復古ノ法令ニ依ル也

建野郷人

補遺書古儀ノ旨

平井与右衛門



新書ノ中ニ書キ置ケル也

平井与右衛門



大坂府知事 建野郷ニ被



書面伺趣面体ヲ覆ハル限リハ何製ノ笠ヲ用
ユルモ不苦ト雖モ特ニ異様ノ扮粧ト見認ル片ハ
警察官吏ニ於テ制止スル場合モ可有之儀ト可
心得事

明治十七年五月廿七日 大坂府知事 建野郷ニ



大坂府知事 建野郷ニ

大坂府知事 建野郷ニ
建野郷雨降首領全體雨傘ノ用
了ラ大陽音頭並ニ護衛ノ者
ナシ且頭並冠モノヲ被ル者知事

消大之難居在園中苦難之等号冠友女
披如所 但武吉同方仍少之口法令

正應素之
南原素之
平井素之
平井素之

平井素之
平井素之

大坂府知事 林重郷之殿



佛說世難多矣入之或自以同
世應若之佛說世難多矣入下稱之
身之也亂之身物或之ハ之杯之身之
高之佛之之号冠之世難多矣又珍瑞
枚貝之於之唱之同

密

南返新田内也...
 所為之個一度...
 如所...
 清...
 幸...
 便...
 大坂府内...
 此...
 請...
 本...



書田面同之類...
 ナス...
 業...
 心得...
 明治十七年...
 大坂府...
 兩...
 敬...
 大阪府西警察署

大阪府西警察署

七十九

甲
第
七
十
九
卷

市門願

一 撥名田業

古石吉道面並應業亦仲問備合
社後連界者以多願也

南區役所

並願書

明治十七年六月三日

補選事務官

水田直士

大阪府知事

南區田邊町

水田直士

戸長 升上平四郎



大坂府知事
兼選里郷之役



願之趣聞置候事

明治十七年六月三日

大坂府知事 建野郷三



曲馬業初撰一

善一和門借問之故今由馬業若
多撰撰略別再一也の上車一也
初撰の事也

延慶業

南馬業方信也

平井

可



大

大板府知事
建仁聖郷之報

由馬業昔男恒持略

由馬業昔男恒持略
曲馬業昔男恒持略
去河子ラス
五海昔昔
龍海昔昔
及做昔昔
其昔昔
唱昔昔
其昔昔
於昔昔

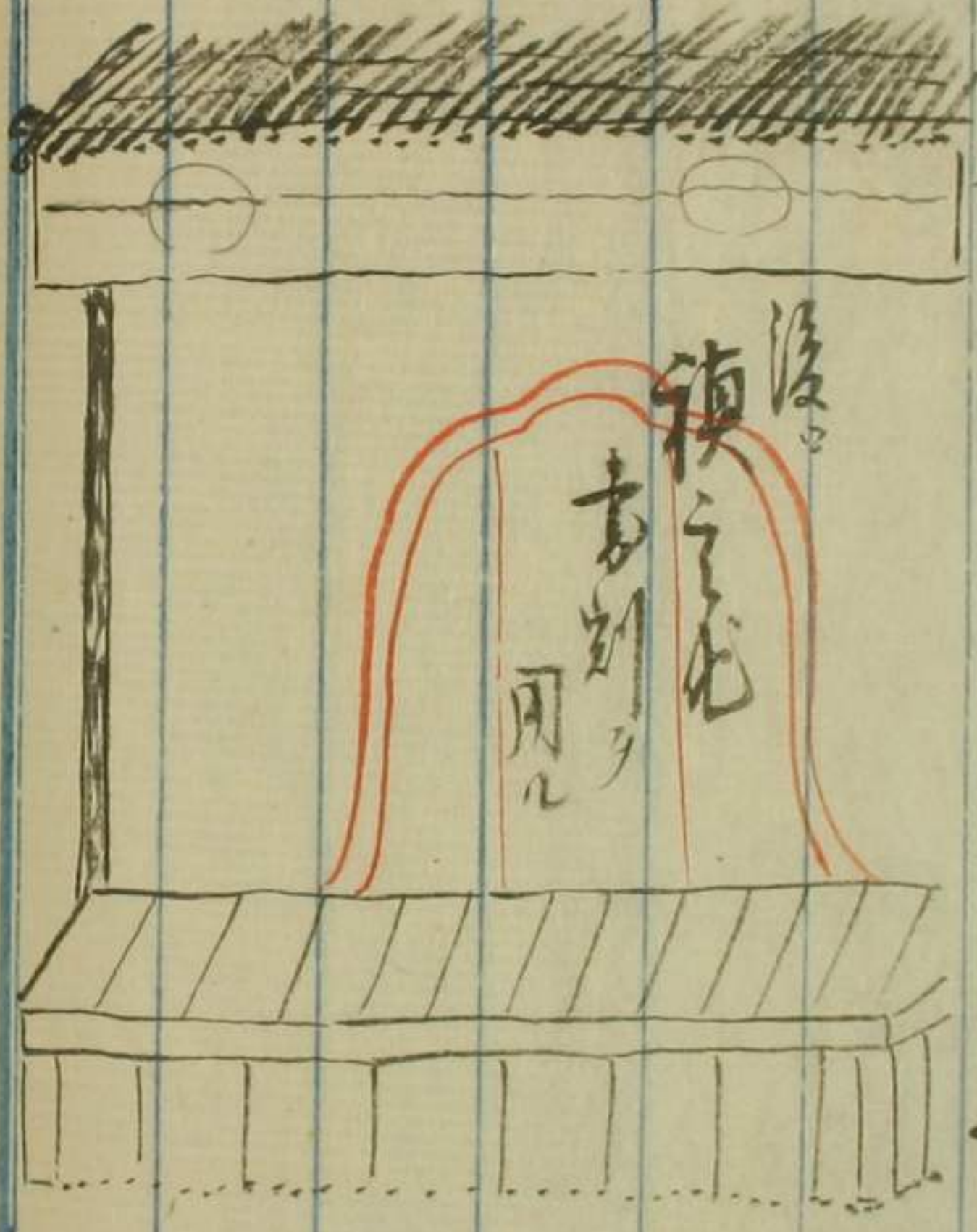
御座敷之儀

二階御座敷
三階御座敷



御座敷之儀

飾座敷
御座敷
中座敷



後座敷
御座敷
中座敷

御座敷之儀
御座敷之儀
御座敷之儀
御座敷之儀
御座敷之儀
御座敷之儀
御座敷之儀
御座敷之儀

八十五

川原中
平井守兵衛

平井守兵衛



國宗子地前丹波國伊豫地長岡寺

中平 七月二日 佛現証能奉久編
今氏共親書寫乃出 高僧住持歷代
中出 亦前國區設所 信之 遊之
別書 及之 異書 於之 亦出 何保
持今 字書 亦出 亦出 亦出

丁卯年

抄略

佛說証龍卷第八
 龍之體也
 龍之居也
 龍之性也
 龍之能也
 龍之德也
 龍之靈也
 龍之神也
 龍之妙也
 龍之妙也
 龍之神也
 龍之靈也
 龍之德也
 龍之性也
 龍之居也
 龍之體也
 佛說証龍卷第八
 龍之體也
 龍之居也
 龍之性也
 龍之能也
 龍之德也
 龍之靈也
 龍之神也
 龍之妙也



浮城御文庫

松之也 松之也 松之也 松之也 松之也 松之也 松之也 松之也 松之也 松之也
 假之也 假之也 假之也 假之也 假之也 假之也 假之也 假之也 假之也 假之也
 伴林首 伴林首 伴林首 伴林首 伴林首 伴林首 伴林首 伴林首 伴林首 伴林首
 八上之也 八上之也 八上之也 八上之也 八上之也 八上之也 八上之也 八上之也 八上之也 八上之也
 並如也 並如也 並如也 並如也 並如也 並如也 並如也 並如也 並如也 並如也
 後之也 後之也 後之也 後之也 後之也 後之也 後之也 後之也 後之也 後之也
 くらぬ くらぬ くらぬ くらぬ くらぬ くらぬ くらぬ くらぬ くらぬ くらぬ
 下之也 下之也 下之也 下之也 下之也 下之也 下之也 下之也 下之也 下之也

大坂府知事 延野郷之殿
平井 兵部



市書 西中 長井 上平 内 部

大坂府知事 延野郷之殿

和 西

一 横 筋 業

右 左 延 野 郷 業 仲 間 之 偏 入 之 儀
庶 知 事 上 取 之 儀 并 延 野 郷 業 仲 間 之 偏 入 之 儀
之 儀 之 儀 之 儀

延 野 郷 業 仲 間 之 偏 入 之 儀
南 延 野 郷 業 仲 間 之 偏 入 之 儀
平 井 兵 部



横 筋 業 仲 間 之 偏 入 之 儀
南 延 野 郷 業 仲 間 之 偏 入 之 儀
平 井 兵 部

水田直七(平)

前書之由

右江家國大平の由

平長井上平内神(平)

南遠長之由侍平殿

西區長立石色止殿
 北區長廣徳孫三内殿
 東區長高遠徳新殿
 西區長内郎市山殿
 東區長佐吉長松井茂紀殿
 別書 十中角一也各那區長之由
 若由之書

冠りやま

水田直七 (下)

天の御業體裁の別番... 再々同出... 業者... 月... 歳... 括...
天の御業體裁の別番... 再々同出... 業者... 月... 歳... 括...

川原...
...

九十三

九十三

冠りやま

水田直七
不

明治十一年四月廿五日
乙 第 三 五 六 号

九十三

夫の次子體材
夫の次子首竹頭
夫の體材
冠り

但し昔古制衣の事



着用品

相模 及 恒衣 十徳

但し右に著用せし又片に著用せしは

多分面ヲ隔テ提テ

右に著用せしは又片に著用せしは

右に著用せしは又片に著用せしは

右に著用せしは又片に著用せしは

右に著用せしは又片に著用せしは

右に著用せしは又片に著用せしは

右に著用せしは又片に著用せしは

右に著用せしは又片に著用せしは

右に著用せしは又片に著用せしは



大正御製 奉還御製

折頭之於信按之應人所及有

折頭之於信按之應人所及有

自法十五年九月甲寅九月既望有出

禮和身所 弟也 西席 報到

月十日之內二項 俸之三人 命之入 強之令 行

人今之可力力力

本 只個方又非此等 有之 信按
自之 何之 信按用之 及之 信按之 信按之 信按之
下之 二之 是之 及之 中之 好之 也

信按之 負中 何之 也

以厚 之 也

人長所を有するは花々海門階の皮
手より赤い雨にうま路香石作りしう隈の人
家不立入をなす事書早より九段目より
寺の極端な派の地をうま路の如くお尋
ふ敷成すの如く行ふことば分る敷成す

此原集の序文

明治十七年

市書院

戸田重太郎

大坂府知事 赤松重太郎



此原集の序文 五段の... 別展
... 何れも... 事... あり... 終...
... 定... 則... 及... 持... 合... 方... 及... 事...

明治十七年

此原集の序文 五段の... 別展
... 何れも... 事... あり... 終...
... 定... 則... 及... 持... 合... 方... 及... 事...

人長折...有子...抱...每門...皮

五 卷 三 十 三 行

此處...計...同

此處...同...計

自...日...知...計

此...日...知...計

此...日...知...計

方公得之... 每段... 合

...

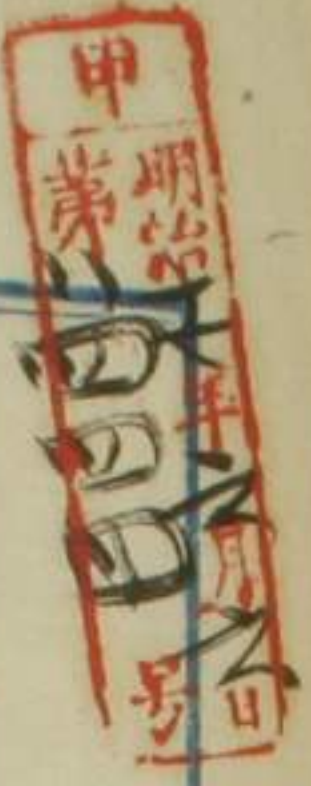
...

...

...



大坂府知事... 野郷...



書面願之趣向置候事

明治十七年六月十四日

大坂府知事達野郷三



和門願

一馬款道業

右表... 延由... 業件... 同... 偏入... 四年... 被... 運... 延... 有... 以... 手... 解... 手... 也

大坂府知事
素足聖郷之殿

弟書
平兵衛 幸四郎



名原
清遠
平井
幸四郎



右
因

西
幸四郎

任
田



坊
谷

谷
口



府課

百卷

百武

別事 出氣邊下業
中平年日月... 各別長... 出
更... 回南... 長... 自傳... 股
及大... 面... 法... 今... 後... 所... 三... 師... 主... 事...

引... 子... 子...

社... 役... 運... 運... 者... 有... 以... 是... 祖... 考... 也

府課

勅業

甲明
第...
書

南區
牧所

書面願之趣聞置候事

明治十七年六月五日

大阪府知事建野郷三

建野郷三
印

所願

一 水害警業

右記以外面水害警業仕間之儀入以申
被後連署者以是趣願事也

百貳

延慶寺僧人

以長年之...

南無阿彌陀佛

平井寺僧所



右之通五通之...

南無阿彌陀佛

大西寺人



南無阿彌陀佛

大川寺人



六...

戸長 升 平 一 部



大板府御業 建重郷之殿

寺 庄

一水庵業

右之通南無阿彌陀佛...

府御業 二上列之...

...

延慶寺僧人

平井寺僧所



水庵業...

全通回中...

大西
精

大川

北

平

南

西
北
東
南

十
南

十

大西 卯
南 卯

未 卯

此面之智同之
如新 別冊
之 卯

此應乘不
卯
卯

前書
卯
卯



大智度論卷之八

無量阿僧祇劫

人所不能及也

如新入夜

千五百四十三人

女

五百九十九人

五百九十九人

五百九十九人

五百九十九人

五百九十九人

五百九十九人

淨信居士

居士

居士

居士

居士

居士

十有二月辛酉年五月丙午日調自自移
吳井也 作四區及偏溪河村

丁酉年
三月廿七日

五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

阿房院
清上節
若上座
俄
輕口
長子

十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十

自去波
曲
水
身
接
自
新
曲
後
帛
貝
相
天

刊上皇罪令所而之是事及所是事
少者而後年之經事度之制員
中何長之也

司馬之也
少者而後年之經事

八



八八少者事之

八八少者事之
少者而後年之經事
度之制員
中何長之也

竹之... 竹之... 竹之...

丁卯七月...

竹之... 竹之... 竹之...



新書

下云井上平四郎



大板府... 大板府... 大板府...

清月

天八... 天八... 天八... 天八... 天八... 天八... 天八... 天八... 天八... 天八...

丁卯七月...

竹之... 竹之... 竹之...



前書

平兵井上平四郎



大坂府知事 遠野郷之殿

南越之海河古所并兵部吉井
主人今五門門房法令領元之
柳之屋保之南越郷之奉見屋之
赤成島之島市信人今之若之
持了之之之之之之之之之之
成之之之之之之之之之之之
年中之島之島之島之島之島
之之之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之之之

之之之之之之之之之之之之

後日漢書若居此上者乃命合上國別
賦之也昔年一以如中上書

作別書 高南上 上書下上

丹月廿九日 扶合書南上 如
上書 丹月廿九日 何書南上

以原上書

人式次書若一以如上書

人式次書若一以如上書

吉月同書南上書 體或如上書

上書 丹月廿九日 何書南上

所上書 丹月廿九日 何書南上

上書 丹月廿九日 何書南上

上書 丹月廿九日 何書南上

上書 丹月廿九日 何書南上

上書 丹月廿九日 何書南上

上書 丹月廿九日 何書南上

再度中... 若... 昔... 與... 且...

川... 年... 日...

... 精... 本... 井... 字... 與... 所...

大板屏

南... 發... 奏... 聖... 旨...

別... 輕... 遠... 出... 而...

... 年... 日...

... 候... 不... 歸... 人... 之... 意...

再店中亦亦也... 若若... 卷卷... 經...
再店中亦亦也... 若若... 卷卷... 經...
再店中亦亦也... 若若... 卷卷... 經...

輕業不事... 人... 歲... 月...
輕業不事... 人... 歲... 月...

年月... 亦亦... 亦亦... 亦亦... 亦亦...
年月... 亦亦... 亦亦... 亦亦... 亦亦...
年月... 亦亦... 亦亦... 亦亦... 亦亦...
年月... 亦亦... 亦亦... 亦亦... 亦亦...
年月... 亦亦... 亦亦... 亦亦... 亦亦...

新及消平姑溪... 以持用... 其人... 外... 年... 別... 有... 今...

明... 年...

江... 平... 兵...



南... 長... 自... 傳... 解

南... 兵... 井... 兵...



百二十

五百十八

柳川

上の事は... 柳川... 曲...

...

...

...

南原長...

...

原上北方鏡海... 五仙多之口持令上...

烟火... 別身... 禮祀... 法... 子及... 流...

[Blank lined page]

烟火自製衣造之

烟火が自製衣造之候烟火が以て此處
自製衣造之候烟火が以て此處
自製衣造之候烟火が以て此處
自製衣造之候烟火が以て此處
自製衣造之候烟火が以て此處

[Blank page with faint blue grid lines and red ink stains]

明治十七年六月

高田長高田傳藏
平井

高田長高田傳藏

南區役所

高田長高田傳藏



南區長高田傳藏

書西何通

明治十七年六月十日

南區長高田傳藏

古樂抄角

古樂抄角

地方院後

古樂抄角

萬曆七年
無愧之業不虛傳人
清風長在古松陰
平井守兵衛

為書
平井守兵衛
平井守兵衛

南風長之傳

平井守兵衛

別書
明業業之福
今此都之文
亦古而福
一伴
業之元

平井守兵衛
平井守兵衛
平井守兵衛

前書... 寧吳井上平四部

大坂府和書... 連重郷 三般

御書

... 御書... 及侍人台... 御書... 及侍人台... 御書... 及侍人台...

... 御書...

... 御書... 御書... 御書... 御書...

新書一冊
千代井上平四郎

大府府知事 建野郷之殿

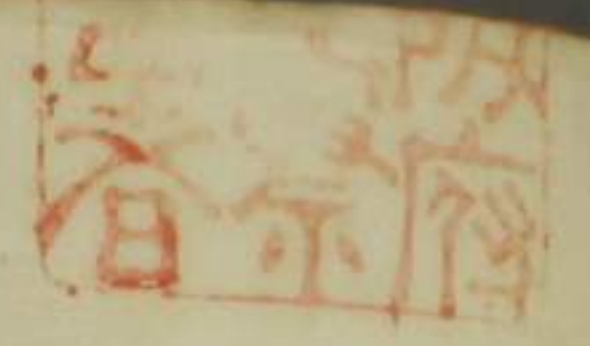
書面伺之通

但利生記又ハ物語等演スル場合言々談
ニ出ルモノト見認ルハハ制止スル事モ
儀ト可心得事

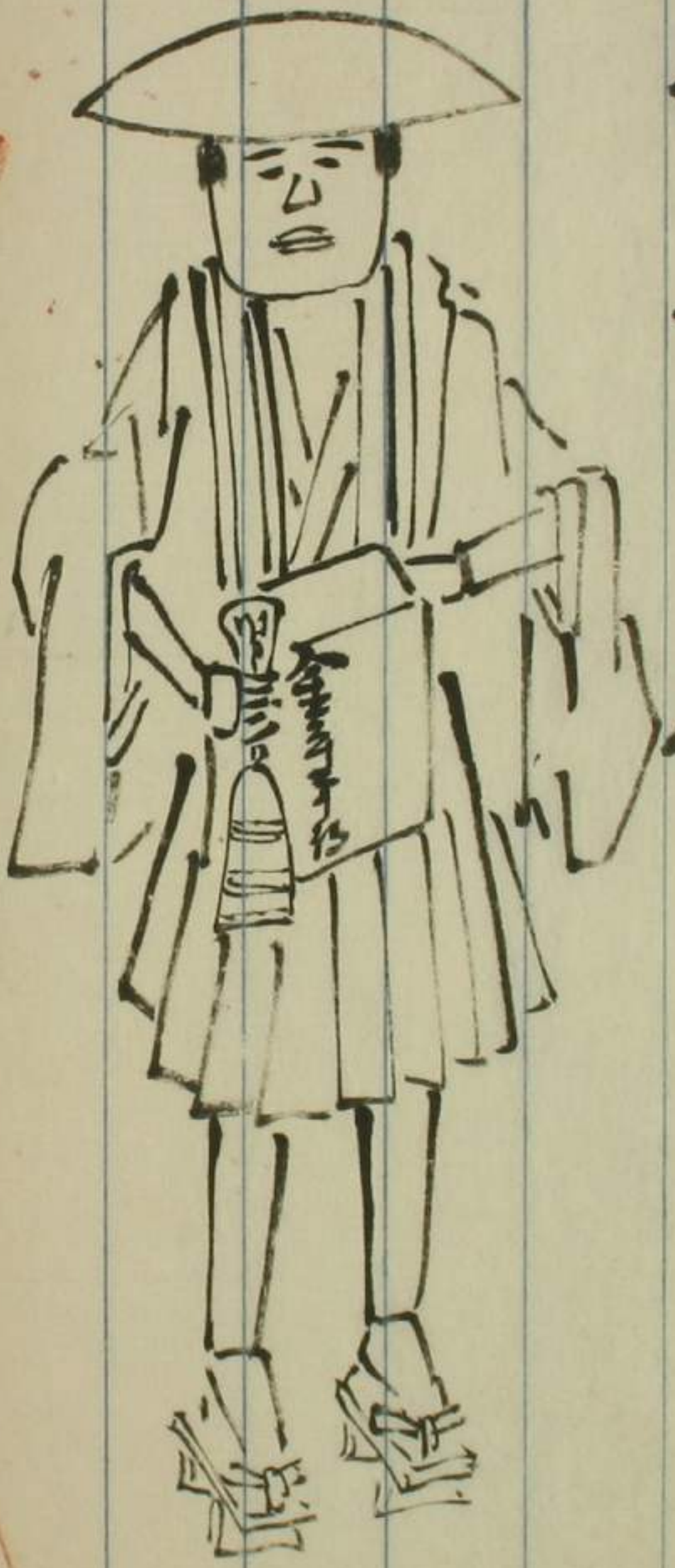
明治十七年八月七日 大府府知事 建野郷 三

令事奉能成事ト云

此所ニ事ト云 令事奉能成事ト云
體ト云云ト云 守ト云 出ト云
十徳ト云 守ト云 守ト云 守ト云
體ト云云ト云 守ト云 守ト云 守ト云



名所先或合平 物造之類多 深之人
 長所之類 想之類 利之類 又之類
 物造之類 深之類 物造之類 深之類
 物造之類 深之類 物造之類 深之類
 物造之類 深之類 物造之類 深之類



印
 印

印

川原 七年
 九月 日

江原 七年
 九月 日
 平井 早 兵衛

印

前 吉 通 申 山 在 自 國 命 也

市 區 設 出 部 也

五 四 十 長 芝 田 志 兵 衛

印

大 坂 府 知 事 建 立 郷 之 役

別番 吉南 山古 同 住 海 至
 備 持 令 及 今 長 無 法 之 居
 与 南 聚 之 家 聚 者 停 止 母 以 有 右
 今 長 役 向 之 思 令 一 頁 手 南 邊 設
 洲 之 側 以 爲 邊 令 止 宿 人 定 期 向
 殺 之 位 之 爲 清 之 之 之 之 之 之 之
 日 之 幸 之 之 之 之 之 之 之 之 之
 下 知 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之
 以 之 地 之 之 之 之 之 之 之 之 之

定限八十日間

右日殺役之六二

此處の如き官籍に長役候の思合より
三丁毎にカビラ官名を交す
併し早に此御申取立上り乙ノ方ニ
申す此御申取立の所々にお申す年若
交すに事ある日迄内々しき事都合
ノ官籍に有く事不届人罹内々
有る事官に事候事候事候事候
申すに事候事候事候事候

此處の如き官籍に長役候の思合より
三丁毎にカビラ官名を交す
併し早に此御申取立上り乙ノ方ニ
申す此御申取立の所々にお申す年若
交すに事ある日迄内々しき事都合
ノ官籍に有く事不届人罹内々
有る事官に事候事候事候事候
申すに事候事候事候事候

刊續此篇之上... 日致... 口... 異... 身... 上... 公... 今...

交田...

大阪府都書 遠望郷之殿

可...

前...

補...

予...

長...

延慶... 清... 玉...

五倫之... 忠孝節義...

別... 忠... 孝... 節... 義... 忠孝節義...

Table with 10 vertical columns and 1 horizontal line at the top.

中々大板屋所 初事得々 出立し年
 如願く 家以 法中 早子 如百
 如法 中々 其 仲間 知 知 知 知 知
 特別 及 次 偏 制 者 及 及 及 及 及 及
 常 及 及 及 及 及 及 及 及 及 及

川原村 寺 あり

他 傳 信 之 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記
 可 見 其 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事
 古 心 得 之 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記

紅 雁 書 事 事 事 事
 精 神 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事
 本 井 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事

新 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事
 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事
 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事

長 芝 田 志 事 事



大板屋 知事 事 事 事 事 事 事 事 事 事

泃吏書

明治十二年 早子 泃吏 泃吏 泃吏
其年若果 仲問 親知 泃吏 泃吏
福入 泃吏 泃吏 泃吏 泃吏 泃吏
仲問 親知 泃吏 泃吏 泃吏 泃吏
承知 泃吏 泃吏 泃吏 泃吏 泃吏

泃吏 泃吏 泃吏 泃吏 泃吏 泃吏
泃吏 泃吏 泃吏 泃吏 泃吏 泃吏
泃吏 泃吏 泃吏 泃吏 泃吏 泃吏



泃吏 泃吏 泃吏 泃吏 泃吏 泃吏

A large empty rectangular frame with vertical lines, possibly a table or a placeholder for text.

大坂府知事 遠望郷之殿

申事 丁酉九月 同日 大坂府知事 初葉
御方 無慮 奉 旨 以 以 以 以 以 以
早 子 如 市 如 市 如 市 如 市 如 市
親 心 小 御 心 特 別 以 以 以 以 以 以
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三
御 心 大 坂 府 知 事 得 旨 奉 旨 奉 旨
別 會 以 以 以 以 以 以 以 以 以 以
初 葉 御 心 奉 旨 奉 旨 奉 旨 奉 旨

百世三

百世四

波及口回答書

明倫彙編
家範典
卷之九

勸高南中七七号

古漢惟優歷故封問之化然厚業
之成之心唯法直年為厚甲字而中
此等布衣之依仕間難得編制者及
方從業者特宜去之思日及之直知異
件之與以我子午七通言一而一之
合之極子知中與道三件間難得之編
制者及之云一保之三一而信人一項之於
從市一而履新以保一而和育之而社
投及之而善也

明法寺住持
九日

勸業課長押田良助

印

南原長三郎侍奉

勸業課長

少部内末吉住持
口口音業
法元業
形書四業
紅鹿福入
自得止
虫形
通度
三斗

本府
勸業課
下

南區農心園傳授

南區農心園

甲
第九百四十七

七
勸業

一
濟
願

一
業
業

十
有
之
由
此
應
業
件
間
編
入
本
年
計
及
連
算
者
只
在
預
算
也

百廿六

弘慶寺 兼下宿所 大
南無阿弥陀仏 吉祥の御
御願 御成
平井 号 三 宿
可成 寺
可成 寺

十右 五右 五右 五右 五右 五右 五右 五右 五右 五右

南無阿弥陀仏

田中 公生

南無阿弥陀仏

平井 号 三 宿

大坂府知事 遠近郷三殿

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏

百世八

勸業

甲
九
廿
四
六

一 濟 願

一 明 樂 業

一 音 曲 業

右之這面並應業伴間上編入

南區

大哲原和室 建恩郷之殿

弟書

平長井兵衛

印

修身新設遠寄者多々類也

延應業石席人

明徳七年

請願書古傳あり

平井 忠兵衛



十石の地お返しに因遠寄有故也

請願書古傳あり

明徳年音田集



若言の事 妻系古傳也

平長井上平四郎



大坂府御筆 延應郡 之段

南區役所

清 古書

別書 明業業科の自記及及是吟

千代部の支那の以物に持角の二モノ

文亦音曲の種に想ふ所の二モノが盤漢

一併之代大信の行儀に節の類に似

業科のモノ云計の由也

延應業石席人

請願書古傳あり



新書... 吳林... 印


大坂... 知... 建... 聖... 鄉... 之... 殿

甲
 一... 一... 一...



百世

一... 願
 一... 而... 業
 一... 元... 部... 業
 一... 歷... 業... 仲... 間... 偏... 入... 之... 象
 一... 都... 令... 象... 中... 象... 象

是也 臣等所奏 上亦謂其 誠言也

臣等所奏 誠言也



臣等所奏 誠言也

臣等所奏 誠言也

臣等所奏 誠言也



大坂府御業 建西郷之殿



百四十一

初者 高子 出 久 南 山
後所 之 思 合 取 取 希 市 米 音 因
果 以 多 果 法 法 元 果 法 而 果 也
不 入 殿 也 殿 也 石 石 林 日 林
止 也 也 也 也 也 也 也 也 也 也
也 也 也 也 也 也 也 也 也 也 也
也 也 也 也 也 也 也 也 也 也 也
也 也 也 也 也 也 也 也 也 也 也
也 也 也 也 也 也 也 也 也 也 也
也 也 也 也 也 也 也 也 也 也 也
也 也 也 也 也 也 也 也 也 也 也

百四十二

新設 運 運 運 運 運 運 運 運 運 運 運

甲明
第七
再世
新業

市 願

一併說社鼓奏事業

右在志遠田並屋業仲間之偏合
并後連累者以手於...

南區役所

上高野之信長年出下西大寺
之出少南邊役所之信長
市成事

丁卯年七月

市成事

社務連署者以手解也

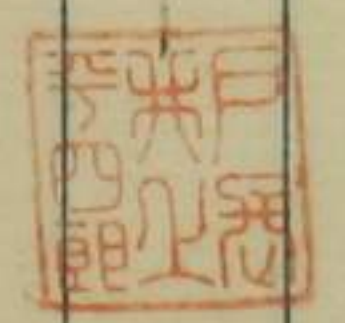
一佛說証教奉久矣

寺願

南區役所

大野摩和堂 建聖郷之櫻

可尋之山由山與山印也
戶長 升 上平 四印



山田徳三郎



大北活那



古心山由山與山印也

補區民由山與山印也



南區役所

南區役所

正徳元年
補給
補給
補給

古
同

大北
大北

山田徳三郎

河合
也

大長

大坂



傳説

世説

世説

世説

世説

真南北右東方南方之滿
漢路我羊右北華 泰久入說
隨從之善乃守大元祖國
總之善之心也 十方也
亦平 程臣也

古者之也 漢之十 每時之人長
今此是性利也 凡法天師由
靈祀之於也 漢之昔果也
乃之彼也 昔果也 彼也

大板府和書 建聖鄉之殿

市言 市言 市言 市言 市言 市言 市言 市言 市言 市言

市言 市言 市言 市言 市言 市言 市言 市言 市言 市言

書面伺、趣營業ヲ為シ不苦ト雖モ特ニ異
様ノ粉粧ヲ為シ又ハ公害アリト見認ムルハ警察
官吏ニ於テ制止スル場合モ可有之儀ト可
心得事

明治十七年五月廿七日

大阪府知事 達野 郷三郎

抄略

佛祝延被奉文ノ成ニ別當ノ通何縁ニテ
罷敷小園カニ如ク角色ノ着附ノ御事カモモ冠
濱ノ白直南南北カ東方西方佛存人ノ言ニ
員ノ附カモ言濱ノ人長州カニ園カ今此所住
化カニ化佛カニ由年カ延被或揚杖診カ
合算カシ濱信カモカカカカカカカカカカカ
奉文ノカモ言カ延被着カカカカカカカカカ
流所カカ佛祝カカカカカカカカカカカカカ
子化カカカカカカカカカカカカカカカカカ



酒造部大蔵

ねまをうり出さるる巧り店に於ては雅説の儀に在
 りて合調スル所あり舞合を飾り踊る者俱杯
 首を擲置り舞多踊る者俱儀に於ては其の寛
 永五年十一月に於ては神代酒造部大蔵に於て
 是等事歌合儀あり舞多踊る者俱儀に於ては
 其の寛永五年十一月に於ては神代酒造部大蔵に
 於ては其の寛永五年十一月に於ては神代酒造部
 大蔵に於ては其の寛永五年十一月に於ては神代
 酒造部大蔵に於ては其の寛永五年十一月に於て
 は神代酒造部大蔵に於ては其の寛永五年十一月

その二つは

丁卯年三月廿一日

敬啟者本會為修葺社稷
子孫之福早經公議同
籌一山一水一草一木

丁卯年三月廿一日

大板府知事 連運鄉之役

承善堂中書長官
戶長并上平中節



承善堂中書長官
戶長并上平中節



神石

華山之僧同之及於神樂雜子歌子編り
 華之或上田養高南之月夜上之羅殿に
 左教教之傳羊多哲神道中馬後
 後之及多編り羊多哲神道中馬後
 子ノ上并外家目下子多編り古除時を被
 子や采之り以之人長所上之應上右以物
 下以中富之後之後之後之後之後之也

神石
 百四九

(Blank lined area on the right page)

皇德寺上人
清修居士信之
壬午年
印

大悟解知書中殊聖御之殿

別處之廣何能必也
初者深之微嘆之
入中反對之
自稱之此之單之
師函上區別之
初高下之
若何之
羊酒之

百五十一

百五十一

及之之古物也

此書係德慶之信者如行物之類
其間亦有許多大小之部令其
不為廢物信可也其年元知約
之其所以信者乃其前系如行
之其所以信者乃其前系如行

以信者乃其前系如行

德慶系之信者
其間亦有許多大小之部令其
不為廢物信可也其年元知約
之其所以信者乃其前系如行



前書之通申出候二付與印仕候也

南邊法堂町通三月廿八日所

戸長 廿二日 奉書所



大正庶務部 東中御之殿

百五十五

百五十五

領事官及多口其以成以方被段以居是

百五十五

別成言而一四成或那 設河
出領之且只今山 一五事

東中區長 官治 設 設

北區長 官治 設 設

南中區長 官治 設 設

丁十 初學得外

推...

此處業之多是通新觀體之在神性
 枝應之漁之而語以法業之對之端級查
 定上之自具而法求之其之各部度我
 仲間之偏之成應聖事之上以法之
 得之未自本後事之而處先般而能勤
 業保之口口與特造之改之有之而於年
 十右等之取招之我之業之此應業之成之
 牛都度偏入上取之方之業之被取歸人之於
 須之口之受之口之其之成之方之被取之口之是也

神 居

南 長 之 向 傳 之 報

丁 十

初 報 傳 外 吉 村 其 夫 股

傳 本 即 長 極 井 茂 註 報

丁 十

初 報 傳 外

南 長 之 向 傳 之 報

丁 十

初 報 傳 外 吉 村 其 夫 股

報

五鹿堂石印
請
平井

為

市

平

南

市

西

東

區

設

新

功

業
深

可也
壬午年二月五日
二月五日

壬午年二月五日

壬午年二月五日

壬午年二月五日

壬午年二月五日

我付同有籍人
壬午年二月五日

壬午年二月五日

壬午年二月五日

壬午年二月五日

壬午年二月五日

壬午年二月五日



壬午年丙寅月...

梅口吉書

陳忠愍公...

和久...

大坂府知事...

別員中山...

別會同... 對... 於... 口... 另... 及... 用... 事...

山崎...

百五十八

百五十九

案...

壬午年丙寅月辛酉日

丁酉年壬寅月辛酉日

此處書者謂及查定其國技應
優者方以監視可得及應人謂和則
亦非有之亦不有籍之書臨時新籍發
案與和之亦不有籍之書臨時新籍發

出張之應人際に調査し任官を以て
見聞し得た及差支之を以て無任に謝す
行方之不明を以て致す也

明治十七年十月十日
南區長高田傳藏
平井中三郎

大坂府知事 建部 謹啓
前記之如く申すに因りて
付申すに於て
市長高田傳藏
南區長



書面年夜更迭之際轉業スル乙申業
際業ノ手續ヲ終ルニ至リ乙業新規開
業ノ届出ニキ義ノ可相心得事

明治十七年十月十日

南區長高田傳藏
南區長
高田傳藏

書面年夜更迭之際轉業スル乙申業
際業ノ手續ヲ終ルニ至リ乙業新規開
業ノ届出ニキ義ノ可相心得事
南區長高田傳藏
南區長
高田傳藏

取書面若左如之平ノ下而係上之書圖印
彼上居等之形如ノ下而斗皮之式
所取之何若行各之ノ括洋之式也
手御也

明治七年
十月十日

北區長 鹿島彌兵衛
大坂府北區長 鹿島彌兵衛
大坂府北區長 鹿島彌兵衛

南區長 南傳

長 鹿島彌兵衛

書面伺封之旧鑑札ヲ以甲廳於之更正、鑑札
ヲ受ケ而シテ乙廳ニ書換儀届出鑑札可申受
儀可相心得事

明治七年 大坂府北區長 鹿島彌兵衛

年ノ度者、更正禮札書附
但之形、此形親等事、之
甲之形、於之、其書、之、年ノ度、更正
之際、甲之形、於之、他之形、之、之、高、之、乙
形、之、於之、形親等事、之、之、書、之、之、
之、甲之形、於之、之、之、形親等事、之、之、

長房所著... 是... 如何... 家...
出... 行... 亦...
子... 知...

司... 行...

市...

補... 補... 補...

長... 長...

長... 長... 長...



別... 長... 長... 長...
北... 長... 長...
右... 長... 長...
微... 長... 長...
市... 長... 長...
那... 長... 長...
官... 長... 長...
從... 長... 長...

本草抄卷之三 足尾銅毒

傳、家、以、其、名、為、治、水、銀、長、生、云、
濃、我、之、後、有、其、效、也、

以、其、名、為、治、水、銀、長、生、云、

赤石

水、區、書、事、所、云、云、云、云、

其、名、為、治、水、銀、長、生、云、
以、其、名、為、治、水、銀、長、生、云、

本草抄卷之三 足尾銅毒
傳、家、以、其、名、為、治、水、銀、長、生、云、
濃、我、之、後、有、其、效、也、

此處亦有信
請向某處信局
轉交
丁卯年
二月
廿五日

北區長之信
請向某處信局
轉交

北區

補中即
若根信村
若信
亦下

北區長之信
請向某處信局
轉交
丁卯年
二月
廿五日

日中書

蘇應

清

可

王



南

南

往

之

中

南

南

南

古

南

百

引錄錄

甲
明
林
十一

國東將案之或亦有
 國東將案之或亦有
 地方稅得之限之批分以爲出商
 於之於令以爲出商
 地方稅得之限之批分以爲出商
 地方稅得之限之批分以爲出商

明
 地方稅得之限之批分以爲出商
 地方稅得之限之批分以爲出商
 地方稅得之限之批分以爲出商

大
 地方稅得之限之批分以爲出商
 地方稅得之限之批分以爲出商

以
 地方稅得之限之批分以爲出商

印

四邊肉之於心相異之或之如何古
必得之或或子自之何子之果
上之或之或子自之何子之果

丁卯年七月

南區役所



南區役所
長三田重太郎



大正府知事 建野郷三

大正府知事

三月五日受
三月五日送
南區役所

書面伺之通

明治十七年十二月十一日

大正府知事 建野郷三



思業能狂言及身御能之或之何

能狂言之或之何及身御能之或之何

後得也之或之何及身御能之或之何

思業能狂言及身御能之或之何

思業能狂言及身御能之或之何

百八十八

古公得之無之 世名之因是之何多之結
今多御也

無應業力信
結區是是信之字自
本井中
以信之字
印

市子
結
戶長
芝田齋

大坂府御書 連軍印之殿

中
西
長
印

百幸九

不信 個
私
之
之
之
之

身即能戒律

物莫大似此也

海之深多沙石故其成則堅也
其成則堅也

知夏中何望耶

可以少年
二年

中夏之書

此句延慶之句以思其心之
正業之精采之厚之口其若
之深也少也古之成也四也
知也年
匡曰其若若之也之深也
之深也少也

延慶之書其編
結句之書其信也
年丹之書

大何厚知書 建國仰之

百七十一

明治二十九年八月廿一日
奉命署理の旨に及ばざるに
由依りて問及する別紙に
控略書し

明治二十九年
八月廿一日

百七十三

窪地より土をとりしりし
一層を海に埋

思業能年恒言中書

思業能恒云之成之物并思業

と云女能柳若後終ふて以專ら

流所^しに女役者^し而^し恒^し終^して^し終^し

修^し終^し其^しは^し廢^しる^しを^し別^して^し終^して^し終^し

都^し能^し恒^し言^し師^し恒^し并^し與^し帝^し

一人^し再^し自^し息^しス^しル^し年^し介^しス^しガ^しり^し也^し傳^しハ^しリ^しテ

授^し略^しル^し也^し

都^しテ^し止^し中^し之^し白^し之^し名^し多^し少^し矣^し（ワキ）

佳^し地^しテ^し止^しト^しシ^しテ^し一^し四^し一^し日^し有^し之^し海^し宿^し煙

地より出たり或は道行して清淨なる
ハクホトクニ 清淨なる上カニ上カニ
ハクホトクニ 中業ニ
ハクホトクニ 今孫々清淨なる程
ハクホトクニ 異ナリ
ハクホトクニ 清淨なる依り
ハクホトクニ 波に思慮する言清り
ハクホトクニ 上カニ上カニ
ハクホトクニ 冊律の未思慮仕但根中お深結
ハクホトクニ 法中より相古矣今乃
ハクホトクニ 一作、道具建、量初能、亦、卷に
ハクホトクニ 之を協と摸様、毎、適宜と道具

建、道具ナル可
 一、塵人をも而、如新、法、中、カ、ツ、ラ
 衣、衣、衣、法、役、過、ス、ト、要、ス
 一、洞（喜、借、後、ル、ク、ニ、ム） 方、を、離、子、協、於
（合、方、用、ル） 合、方、用、ル
（合、方、用、ル） 合、方、用、ル
 一、道、成、未、結、未、法、法、仕、但、未、律、の、未
 七、回、結、之、之、條、中、業、亦、亦、新、作
 思、慮、之、之、情、神、亦、亦、長、亦、一、思、し
 又、初、結、之、之、中、業、亦、亦、相、音、師、出、ラ
 十、回、中、法、思、慮、之、之、シ、ダ、シ、ト、云、ラ

滑稽子流石丸十石と趣向と云ふ尚書劇
情に於て流石丸と知進張板板と思案と
部類類ナリと云ふ者有テハ夫令先アテ
一思案能年相言と別冊に記載せん
印と云ふ事あり

一思案能相言と云ふ事あり申相言と云ふ事あり
少矣都ラ仕得老所作と思案能同
百ノモノニシテ流石丸人ト申相言と云ふ事あり
千化一切異テクニナシ
一思案能相言吾雅子と能離子ヲ用

流離子と後ハ柏子ト相言テ異テ
右様略印申一ハ也

流離子と後ハ柏子ト相言テ異テ
右様略印申一ハ也
流離子と後ハ柏子ト相言テ異テ
右様略印申一ハ也
流離子と後ハ柏子ト相言テ異テ
右様略印申一ハ也

大坂府發云案申書者
才抄部 所中

別法に通其第何を亦た道
以移系之本を業た相う社心得る可

一照業能、義、陳、相設、人寄席
規則勢中、つんを、こし、舊古在、
河留、失、中、決、交、之、
トス、其、狂言、趣、官
ノ、談、下、向、如、
趣、意、下、向、
校、之、
良、之、

百七十七
百七十六

大坂府知事 遠望御之殿

モリノ後之思業之因也之能大ニ得
業之流流技之流之方之之之之之
之之之之之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之之之之之

以
精
本
之

前春之通何出候ニ付奥印仕候也

南區鹽町通四丁目外八ヶ町
戸長芝田嘉兵衛



能名寄

高砂	弓八幡	岩茂	代主
養老	志野	虎山	代保山
雅波	九世戸	岩浩	岩坂
氷室	浦島	伏見	松尾
放生川	逆井	鶴条	白旗
源太夫	藤見	大社	岩松
江ノ嶋	繪子	右近	西王母
東方朔	山名舟	竹生海	道の寺
玉の井	白乐天	金札	和布刈

富士山	小瓶治	皇帝	威陽宮
鐘馗	多六天	鶴立田	春日抄神
知章	清經	生田敦盛	田村
忠信	破潛	信玄右衛門	瑞戸
教盛	公服	持兵衛	經受
岩手与市	禅師与我	現在齋	大蛇
籍名	将々	六浦	羽衣
初雪	吉野静	胡梨	牡若
芳野天人	小智	花月	小袖与我
羅生門	合甫	雷電	草薙

后夜行
 清原公家
 久三六号
 岩手
 聖れと書
 岩手
 久三六号
 岩手
 岩手

菅深川	當	廣	照	君	三	滌
忠則	玉	尊	采	女	二	人
龜田	通	隆	深	舟	空	憚
班	如	那	野	受	芦	刈
佛	系	苑	多	川	海	人
自然居士	祇	王	住	吉	信	山
七騎落	千	手	楊	考	死	深
橫川	百	美	麓	左	報	林
天	報	富	士	左	報	林
洞依	義	我	放	下	僧	安
						宅
						蟻
						通

景清	抄	竹	小	弟	幸	隅
高	重	務	求	塚	礎	正
管	房	盛	歌	石	熊	野
雲	蔭	山	高	野	抄	取
誓	新	寺	西	行	極	滿
護	法		阿	漕		考
卷	箔		絃	上		姨
言	寺	所	精	結	寺	所
屋	多	月	定	家	本	賊
治	親		馬	乞	依	木
			河	水		現
						在
						七
						角

后夜引
 續
 聖
 紀
 卷
 之
 七
 第
 一
 章
 第
 一
 節
 第
 一
 段

現在道成寺 西源寺
以上抄石之拾八番

狂言名寄

蛭子昆布門	連方昆布門	葵	枳	松	脂
麻生	鴉八撥	厚	丁令	餅	河
昆布栉	三人笑	松	探	三人袴	
引家聲	賊	寶	福	神	唐相撲
八幡前	室	室	室	樞	牛馬

水掛舞	船渡之聲	庖丁聲	鏝
筑紫舞	鴉	舞	音曲聲
張	蛸	依	後
龜	角力	入	百川
粟田口	人馬	鞆	猿
萩方名	禁	跡	丁
善	塗	龜	尾
二人大名	京	海	
乐阿弥	枳	枳	枳
地	音	金	津
無	常	施	經
花	折	比	工
尼			

狂言名寄 卷之六 尾

取不之	骨皮	惡坊	鶴庖丁
素袍落	子登人	連分邊人	仇盜人
惡友良	花邊人	法原母	花子
死友良	八分連分	破辛	空腕
約批	六人傍	通円	首分
朝日奈	八尾	罷罪人	餅出十王
飯殘	神唱	首引	職鬼十王
未廣	目近	二本柱	蛭子大黒
掃山伏	菴山伏	蟹山伏	弟山伏
大山伏	芭山伏	櫻新	花足注

川上庄	醒庄	暫如庄	伯養長
丹砥	牛曳庄	猪庄	栗安庄
鞠庄	二千石	富士松	衣惡
文山	居杭	舟箱	滝ノ音
鞍子系	成上	輝	痺
繩子	狐塚	口山似	志葉
右と左也	河原庄	伊文字	因懷堂
磁石	附子	舎子	棒子
膏葉	干香	文花	昆布膏
止勤方角	栗燒	鶉泥	花争

居夜引
 續首
 三六
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十

酒籠房	河好坊	土地公	三叉長者
左近之良	坂牛	木之敷	挽骨
皇者	湯之狸	埴	射狸
道者	猿舞	弦原	大為内
御田	瓢の神		
以上沙百之拾八番			



官事の事月復の成を所月
 郡部内之経手其事一書上事一聖礼
 事又官事者久きより原部内之轉
 后彼引續官事久きより一器上事
 聖礼之事者も其解久きより復之聖

書面伺へ趣経海子具之郡區ヲ傳
居之末リテ訣業管公際其等級家異
スルニ相当ト見認ルルモノハ伺へ通

明治六年十月廿日 大坂府北區長鹿島海子衛



外ノ罪定ノ我々御願

依此定出ノ色ノ減
減定ノ實原同遭是仇任

過人取歸手井守兵衛
課稅之義有回業者實
取公守ヲ取以守ヲ之
ヲ此守御願也

一等ハ一ヶ年全五二十五圓トシ漸次減額ニテ最下
等則々第一等ハ一ヶ年全五圓トシ指定相成
之如原米該ノ業者ノ實況ノ於ケル最上ノ等
則々第一等ノ價者ト至モ其稼日數ニ一年向漸
半ヶ年
稼額モ亦ト定レニ此ノ最下等者者ト至ツテハ

興業ヲ稼ケル地回ノ興業
トシ夏向休業又且日數相成ハス

依^レ老^カ定^カ心^カ也^カ
誠^カ實^カ至^カ固^カ也^カ
道^カ足^カ也^カ
誠^カ實^カ至^カ固^カ也^カ
道^カ足^カ也^カ

書面伺之趣、徑向子具、之、郡區、傳
 居之末、テ、訣業、管、際、其、等級、家、異、
 スル、之、相当、ト、見、認、ム、ル、之、伺、通

明治六年十月廿日
 大坂府北區長鹿島區長
 鹿島區長
 鹿島區長

遊藝家人課税、我々御願

海防増進、之、味、得、人、取、締、平、井、之、兵、衛
 樋口、吉、兵、衛、遊、藝、家、人、課、税、之、義、有、回、業、者、實
 地、課、税、之、趣、有、詳、具、之、最、上、等、之、家、々、子、之、之、
 迄、課、税、減、額、之、趣、有、詳、具、之、最、上、等、之、家、々、子、之、
 從來、遊、藝、家、人、課、税、之、義、一、目、一、等、之、二、等、之、三、等、
 一、等、ハ、一、ヶ、年、金、五、十、五、圓、ト、漸、次、減、額、之、趣、下
 等、則、ハ、第、一、等、ハ、一、ヶ、年、金、五、圓、ト、指、定、相、等、之、
 之、趣、厚、米、該、之、業、者、之、實、況、之、趣、有、詳、具、之、最、上、等、
 則、ハ、第、一、等、之、傳、者、ト、至、モ、其、稼、日、教、一、年、向、漸、
 半、ヶ、年、
 一、興、業、ヲ、稼、カ、ル、地、回、興、業、
 之、趣、有、詳、具、之、最、上、等、之、家、々、子、之、
 稼、額、之、趣、有、詳、具、之、最、上、等、之、家、々、子、之、

アマツラ
ケニツク
シツル
ホリント
アエラ
カレシ

一日、縁額僅し、折交内おこ過カカして、寧ろ、餉に
ノ完迫ヲ受シ、不肖ニ、本年度、如、全國一極ノ
不景氣、此、日、然、休、業、セ、ル、ヲ、得、ル、ハ、場、合、ナ、ル
内、其、稼、日、数、一、年、間、漸、ク、乏、カ、一、道、不、到、ハ
収、得、縁、額、隨、ツ、減、殺、シ、為、ノ、一、没、一、張、ト、シ、テ、縁
ノ、漸、ク、知、縁、額、ヲ、得、ル、ヤ、否、ヤ、ニ、止、ル、能、ハ、其、利
益、悉、皆、細、稅、ノ、充、ツ、テ、猶、不、足、シ、ル、ニ、ホ、ル、レ、バ
自、分、ノ、妻、女、ヲ、一、家、事、思、ハ、抽、口、ヲ、廢、ク、一、能、ハ、ル
ヲ、事、ヲ、た、右、ニ、呈、シ、極、ニ、逋、稅、ノ、弊、ヲ、免、シ、ル、ニ
至、ル、其、實、地、ノ、情、況、先、定、ト、シ、者、ハ、思、ハ、ル、者
ニ、シ、テ、敢、テ、縁、業、ヲ、怠、ル、ニ、ア、ラ、ズ、世、ノ、一、般、ノ、不、景、氣
ノ、原因、ニ、據、リ、一、道、ヲ、キ、テ、一、ハ、實、ニ、憐、ム、可、キ、ノ、極

ホコラシ
イニマ
ソラク マコトニキカ
オカイ

點、ナ、リ、特、ニ、況、ニ、ヤ、本、年、度、如、リ、不、景、氣、ノ、折、柄
尚、ホ、且、ツ、加、フ、ル、ニ、恐、疫、流、行、有、ル、ニ、俾、止、メ、令、申、セ、ラ
ル、ノ、期、ニ、逋、過、ス、ル、内、ハ、定、ト、シ、餉、額、ヲ、保、護、能、ハ、ル
ハ、域、ニ、シ、テ、細、稅、額、ヲ、裁、減、ス、ル、一、道、ヲ、キ、一、所、以、ナ、リ
前、陳、次、第、存、在、ニ、昨、治、十、九、年、一、リ、得、者、共、ニ、
稅、金、權、衡、ノ、減、額、ヲ、仰、ギ、適、当、ノ、課、稅、ヲ、賦、セ、ラ
シ、度、先、ハ、内、ノ、實、地、逋、稅、ノ、恐、弊、ヲ、カ、シ、ム、ハ、向
編、傳、者、ト、モ、各、自、學、業、ノ、安、堵、ヲ、致、ト、ス、者、ナ、ル
一、点、ニ、存、在、ス、同、前、段、ノ、事、情、深、ク、ほ、河、怨、ム、以
存、會、議、場、ヲ、於、テ、活、ク、會、議、ヲ、附、セ、ラ、シ、世、ノ、一、般
ノ、不、景、氣、ニ、照、準、シ、テ、一、道、ノ、減、額、ヲ、裁、減、ス、ル、ニ
一、方、取、締、人、連、署、ヲ、以、テ、謹、テ、奉、懇、願、也

天保六年十月一日

津彌備之素部婦人

南區末吉揚道四丁目

二十四番地

平井字兵衛

西區新所北通二丁目

吉番地

樋口吉兵衛



大坂府會議真御中

百九十一

百九十一

別府... 何... 及... 外... 九...

平井... 樋口...

貞吉... 平井... 樋口...

洋商之業
南洋之業
南洋之業
南洋之業

代理人
香港
廣東
福建
浙江
江西
湖北
湖南
四川
陝西
甘肅
山西
山東
河南
河北
直隸
奉天
吉林
黑龍江
蒙古
西藏
新疆
雲南
貴州
廣西
陝西
甘肅
山西
山東
河南
河北
直隸
奉天
吉林
黑龍江
蒙古
西藏
新疆
雲南
貴州
廣西

代埋人より辨程を致す素より其程
音の如く申入り申す口實より其程
是等閑に申すは其の如く申す
中ラシメて居るに其程又代埋人にして其
代埋人より希程の程を出して其
想程は其の出るに其代埋人の程に
年一度限る其程の責を其の如く
又年一度限る十九者十九其年一度
の如くは必ず其程の如く其程
に申す代埋人より希程の程を出して

其の如くは其程の如く其程
撰りて其年一度其程の如く其程
於て大に因難に其程の如く其程
如何の如く其程の如く其程
其程の如く其程の如く其程

辨程の如く
其程の如く
其程の如く
其程の如く

前書之通申出候ニ付奥印仕候也

南區鹽田通口一戸外八戸

戸長芝田嘉兵衛



南區長海邊田長

百九十三

百九十四

Handwritten vertical text in cursive style, likely a continuation of the document's content.

Handwritten vertical text, possibly a signature or date.

前書之通申出候ニ付奥印仕候也

純

洋紙及全之経簿

美

此は美紙の定規に準じて
紙の枚数を数えたり

合之系 内書 凡一回收得也

美

合之系 内書 立

右以下 簿 凡一回收得也

人初也

極優其

合五五法 丙午 凡一四收得

優其

合五五法 丙午 五

劣其

合五五法 丙午 法 丙午

古應人 合五五法 丙午 法 丙午

劣其

優其

合五五法 丙午 凡一四收得

並優其

合五五法 丙午 五

古應人 合五五法 丙午 法 丙午

優其 合五五法 丙午 法 丙午

劣其 合五五法 丙午 法 丙午

古應人 合五五法 丙午 法 丙午

優其 合五五法 丙午 法 丙午

劣其 合五五法 丙午 法 丙午

古應人 合五五法 丙午 法 丙午

優其 合五五法 丙午 法 丙午

劣其 合五五法 丙午 法 丙午

持此經者... 諸釋師

上卷

合上卷

內書

凡百收得之

中卷

合上卷

立

下卷

合上卷

立

古... 相... 同... 下... 上卷

合上卷

內書

凡百收得之

下卷

合上卷

內書

凡百收得之

依... 輕... 自... 下... 上卷

上卷

合上卷

內書

凡百收得之

下卷

合上卷

同... 自... 下... 上卷

亦如衣之他物者多之也其令之肉之利
其人多之也其應人今收得之新布之應人
競之之玉體也

之令之玉體也 收之唯之方上後大

十年、割、十、年、好

合、或、或、是、在、内、中、一、日、收、得

之、名、師

十日、問、一、煙、九、合、之、後、亦、因、之

但、其、之、煙、人、自、其、也

之、煙、長

之、煙、師

之、人

之、煙、方

之、人

清、見

之、人

唯、子

之、人

古、之、人、自、令、刻、之、得、之、之、後、亦、因、之、師、
、收、得、之、令、之、也

之、名、師

合、之、名、師、内、中

之、令、一、日、收、得、之、也

中、之、名、師

合、之、名、師、内、中

之、令

之、名、師

合、之、名、師、内、中、之、令、收、得、之、也

之、名、師

三德教習師

下是所 或問凡百只取象

無二煙ノ人首ノ人

大吏 産長鹿ノ人

副大吏

上 宗

法 見

個 方

建 乃 冥 方

遊 子

務 務 務 科

十右人首之刻之布シクニ持類之産長教習

上 宗 法 個 建 遊 務

師ノ收得ノ子孫令

上 宗

合 宗 主 宗 宗 内 宗

凡一四收得之

中 宗

合 宗 主 宗 宗 内 宗

主

下 宗

合 宗 主 宗 宗 内 宗 下 宗 宗 宗 宗

宗 宗

親徑多ク入力ニヨリカシクシテ宗師及雜
修歴人ノ年約今ノ如ク修歴内中ノ主

宗 宗 宗 宗

上 宗 宗 宗 宗

中 宗 宗 宗 宗 下 宗 宗 宗 宗

百九十八

十石部屋上納久粗喝少
 以初一年
 二
 三

十石部屋上納久粗喝少
 以初一年
 二
 三

十石部屋上納久粗喝少
 以初一年
 二
 三

十石部屋上納久粗喝少

十八年...

一	二	三	四	五	六
...

十石部屋上納久粗喝少

百九十九

總領事官
 精進
 和井 中三郎


大坂府
 收税保状

申付之御座人等保状
 古御
 申付下連
 一保り

申付下連
 一保り

御座御座
 一保り

一保り
 御座御座

古御
 一保り

貳百

大坂府
 收税保状
 申付下連
 一保り

古中一風部廣文正得久

可也
三

而籍人之也

物仲問東流而籍人沒據
得與彼少安也

東流將日可也

海陽之華仲問
東流不籍人

昔是厚有廣西

古中一風部廣文正得久

異心也

古

昔是厚有廣西

可也
三

大正府知事 兼 支那部 長

陳慶博 支那部 長

和久 虎七



書南... 支那部 長

書南... 支那部 長

支那部 長

支那部 長

支那部 長

支那部 長

支那部 長

支那部 長

支那部 長

支那部 長

支那部 長

古くは... 何れも... 行... 持... 成...

後醍醐天皇御

御筆

平井...



可...

大板府

西...

別... 千... 可... 皇... 昔... 羊... 三... 羊... 石... 引... 兵...

是是也年... 中長役... 引... 兵...

第一頁

丁卯年

外頁

上中... 中長役... 引... 兵...

客年甲子百餘年布其其年
丁未年長役傷之任後在
早波網書持之所之應之由人
之海之上任後之出也
又由人戸之計也之也

羊式頂

任後之也之也之也之也之也
再後之也之也之也之也之也
早波網書持之所之應之由人
之海之上任後之出也

羊式頂

任後之也之也之也之也之也
再後之也之也之也之也之也
早波網書持之所之應之由人
之海之上任後之出也

又之也之也之也之也之也
再後之也之也之也之也之也
早波網書持之所之應之由人
之海之上任後之出也
又由人戸之計也之也
任後之也之也之也之也之也
再後之也之也之也之也之也
早波網書持之所之應之由人
之海之上任後之出也

魯隱公歸人

乙 明倫彙編 家範典 第 五 二 八 号

齊 例

姜一頂 營軍若甲一區 乙區
 轉居之 乙區長自與方 丙
 乙區應之 丙區可也
 姜二頂 區長自與方 丙
 十之區 丙區長自與方 丙
 姜之頂 姜年 丙區長自與方
 停此之 應人 丙區長自與方
 乙區長自與方 丙區長自與方
 中 丙區長自與方 丙區長自與方
 十 丙區長自與方 丙區長自與方
 丙區長自與方 丙區長自與方

南區役所
 事務長 佐藤 正
 明治十九年八月二日


南區役所
 事務長 佐藤 正

丁第九十號

其組合取締事務所ニ於テ該事務取扱ノ爲メ雇役スル
 筆生助手等ノ者自今雇入レ候節ハ取締人ニ於テ豫メ
 履歷書ヲ添ヘ當廳へ申出テ認可ヲ受クベシ
 但本文筆生等解雇ノ節ハ其旨直ニ届出ツベシ
 現今雇役セル筆生等ハ此際前項ニ準シ履歷書相添ヘ
 人名等届出ツヘシ

右及通達候也

明治十九年 八月二日

大阪府南區役所

二百九

二百十二

南區役所
 事務長 佐藤 正
 明治十九年八月二日

乃之注想令身連約等以之云云
學之既成亦之し之と後道口云云ノ
士方之と前其旨之故も法云云
志一申出取招々注々々採可致
有の令身之注之想約言何云云
ナキ之と後合取席人際之云云
亦事之採招之及以以力在場之云
云々

南之云云は年早中起る

別紙通達書刻付外云々
町之之之之之之之之之之之
可有之云々

朱印
初葉書云々

本年有應千之千之千之千之
高上業知令中官取席云々
幣中云云之儀之儀之儀之儀之
付助費之云々

方人云々自之云々

五十九
三十三

此等可謂學之者乃乃南國地當平
仰者自今自今此等可謂學之者
取歸人之子於子直之存以復曆日
一係く二日以内者得所人而出之
此等更之乃乃南國地當平
此等可謂學之者乃乃南國地當平

大阪府南役所
在の者商之者業今在見り

係長主任
二五〇六
明五廿廿日
月日

二百十二

此等可謂學之者乃乃南國地當平
仰者自今自今此等可謂學之者
取歸人之子於子直之存以復曆日
一係く二日以内者得所人而出之
此等更之乃乃南國地當平
此等可謂學之者乃乃南國地當平

清國為其業仲何也若婦人
我仲何知何其春也若婦人任期
互標之安也

大坂市南也其言信也
甲辰年五月五日

平井信之

十日一五日再標之安也若婦人

大坂市南也其言信也
甲辰年五月五日

平井信之



大坂府知事 西村 隆之 殿
東長官 宮崎 徳次郎 殿

東長官 宮崎 徳次郎 殿

清海房 二年 仲向

或打 壬午年 申 計 年 申 申

我 仲 向 或 打 壬 午 年 申 申 申 申

年 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申

清海房 二年 仲向

如 之 申 申

大坂府知事 西村 隆之 殿

平井 守 之 殿

或打 壬午年 申 申

大坂府知事 西村 隆之 殿

聖德太子

和丹

二百九

清原信房之案件問

京拾遺官中 福果衣

夏 出

一全百拾九系九拾九

社釋

全拾九系

全三圓

全六系拾九圓

書信所

果張

全三系

主 聖德太子 和丹山

一全拾七系五拾五錢	二四月
一全拾五系二拾錢	五六月
一全拾六圓四拾錢	七八月
一全拾五系拾錢	九十月
一全五圓貳拾錢	十一二月
計全一拾八系拾五錢	

差所
 一全貳拾五系零一拾七錢五厘



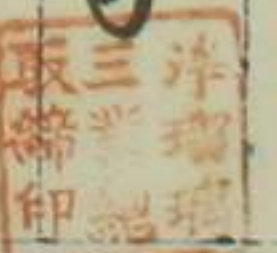
一全六拾錢	集會費
一全拾八錢	臨時費
一全拾五錢	山法蠟燭茶石函
一全貳拾八錢	米年及土庫衣
一全九拾七錢	什卷
一全拾五系九錢	文和年申 仿全
計全一百零九系零二錢五厘	
一全拾八系五拾錢	一二月

收入

中日通商年表及年表

海防協會年表

海防協會年表



海防協會年表
第三十號

組合
檢定
檢定
檢定

大坂商法會議
海防協會

海防協會年表

東區
西區
南區
北區

西區
南區
北區

南區
北區

大阪府農商課

大坂商法會所

大坂府農商課

大坂府農商課

大坂府農商課

大坂府農商課

大坂府農商課

農商課

右記至急要用府打返し書者
有之、改書也

明治廿三年一月廿九日

大阪府農商課

大阪府農商課

大坂府農商課

大坂府農商課

農商課

事督所位運印中

海病傷業總各

事督所

上中者大板市一西國北居口上通
三月月百二書自浦設理其
少也

昭信大之奉三月月其

右

右口以... 勿... 勿...

... 勿... 勿...

平丹... 勿...



古... 存... 身... 高... 綽... 字...

清... 酒... 房... 之... 事... 在... 延... 壽... 案... 石... 碑... 人... 轉... 地... 之... 處

清... 酒... 房... 之... 事...

清... 酒... 房... 之... 事... 在... 延... 壽... 案... 石... 碑... 人...

延... 壽... 案...

清... 酒... 房... 之... 事... 在... 延... 壽... 案... 石... 碑... 人...

南... 延... 壽... 案... 石... 碑... 人...

壬... 午... 年... 中... 月... 日...

右

十日者个段去招市一而此是江
上通之月百之各勿清一轉始有月
新日中即上之也

我打三年
十日

十日
平年



去招市南溪長溪口梅溪段

溪段溪段之各事及

事上招市一信是各事及之各

去招市南溪長溪口梅溪段

溪段溪段之各事及

事上招市

十日者个段去招市一而此是江
上通之月百之各勿清一轉始有月
新日中即上之也

右

古抄市南此海日名三國
百之百

少抄

河内府之書

書之習折

十日

平年



古抄市南此海日名三國

東海

我付同而籍

能年投而

清

南

東海

平年

古抄

中

古

明治廿三年

平井中

平井中

極口吉

大坂市東區上野

此の町

櫻井

田中福

大坂市東區長代

河野 願書

天皇陛下御下今般本市河野
自然之河野河野河野河野河野
知合七言業有後無後無後無後
信友何業七言之上願書

明治廿三年一月一日

大坂市南區

石井北區

大坂商法會場所
清中

平井印



橋

新



大坂市南區此處所
甲打

吉倉玉



文樂座

大坂市南區此處所
甲打

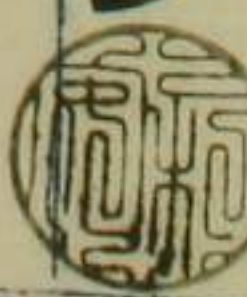
梅村養



右

大坂市南區此處所
甲打

梅村忠



大坂市南區此處所
甲打

平井印



西成郡

百三十一
止

西成郡長

上日
西成郡九条村大字九条

西成郡九条村大字九条

本日付
西成郡長櫻井義起

明治十二年四月廿日

西成郡長櫻井義起

西成郡長櫻井義起

大坂市西區新南道三丁目甲番屋敷

平民

明治十七年六月十二日大坂府南区才吉橋通四丁目
平民 平井 卯直 齋 慶子 女 入籍 明治三十三年五月八日大
坂府西成郡九条村大字九条平民 坂根 諒之助 妻 良女
願 濟 分 家

主 戶

坂 根 之 助

明治十年三月二十五日生

